戸塚　和 議員

教育問題で生きた食農教育を

Q 問　一般農家に宿泊し、仲間同士で農村の自然を実体験しつつ、礼儀や忍耐、生命を尊重し感動する心、生活習慣を学ぶことはどうか。

A 答　子供たちにとって教育価値の高い活動であるとともに農業への関心を高め、その振興にもつながっていくものと考える。幾つかの課題もあるが、新たな制度の活用も含めて検討を進めていきたいと考えている。

外国人の徴税対策について

Q 問　誰もが住みやすい町、交流の場である町になるために努力しているが、日本風土や生活習慣になじめない外国人の徴税対策が大変おくれていると思う。市の対策はどうか。

A 答　外国人を雇用している企業に対し、給与調査への協力や納税のための広報のお願いをするとともに外国語の書面による納税の催促を行っている。今後は、関係機関との情報交換や、他市町とも連携を密にし、滞納額のさらなる縮減に努めていきたいと考えている。

今井小学校で行われている農業体験「たんぼの楽校」

廣岡 英一 議員

焼却されているごみの減量化、リサイクル化への対策は

Q 問　木・竹・わら類は焼却ごみの10%を占め、増加の傾向にある。河川愛護など草刈り後の処理を含めどう対処しているか。

A 答　木質系の剪定枝等は、ごみの減量化や資源の有効活用の観点から、今年度から宇刈の民間処理場への搬入をお願いしている。

バイオマスタウン構想は、資源をいかに利活用するかが大切である

Q 問　バイオマスには、臭気拡散をもたらす畜産系資源もある。研究具合はどうか。

A 答　バイオマス資源となりうる市内の賦存※量を調査し、結果が明確になった段階で方向づけをしていきたい。

※賦存量…潜在的なエネルギー資源の上限値

Q 問　バイオマスタウンの目的には、温暖化対策、資源循環のほかに新産業育成、地域活性化もある。本市の守備範囲はどうか。

A 答　構想づくりに当たっては、農業団体、産業団体に参画してもらい、より実現性の高いものとしていきたい。また、独自性のある取り組みについても検討していきたい。

廃食用油で精製した燃料を利用して走行する市の公用車